

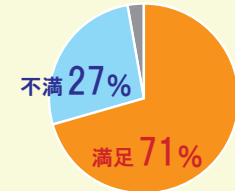
みんなで描いた「道するべ」

第3次久米島町総合計画は、行政だけで作ったものではありません！「未来の久米島」という目的地に向かって、誰もが迷わず進んでいける確かな「道するべ」をつくるため、主に5つのアプローチで多様な住民の皆様の声を拾い集め、議論を重ねてきました。それぞれの取り組みが、計画づくりにおいてどんな役割を果たしたのかをご紹介します！

住民アンケート（広くホンネを客観的に把握する役割）

全世帯を対象に、皆様の満足度や未来への意向を数字で客観的に把握する役割を担いました！たとえば「地域での暮らしにどの程度満足していますか」の問いには約71%の方が満足と回答しました。様々なアンケート結果は、各施策の方向性を決める重要な土台となりました。

地域での暮らしの満足度



各種ワークショップ（本音で語り合いアイデアを生む役割）

アンケートの数字だけでは見えない「リアルな声」を拾い上げる役割です！中高生、子育て中のママさん、経済団体など、立場ごとに集まりました。専門家の話を聞いたり、「どうすればもっと島が良くなるか」をワイワイと本音で語り合い、そこから生まれたワクワクする解決策を、具体的な施策のアイデアへと練り上げました。



パブリックコメント／住民説明会（計画案を磨き上げる役割）

できあがった計画（案）を皆様に広く公開し、最終的な意見をいただいて計画を磨き上げる役割です！説明会での直接の対話に加え、WEBフォーム、役場やほんのもりで公表し、意見募集を行いました。下水道の整備や産業間の連携強化など、寄せられた生活に密着した鋭いご意見をしっかりと計画に反映させました。



振興計画審議会（専門的な視点で客観的に審査する役割）

学識経験者や各分野の代表者など、専門的な知見を持つ委員が、計画全体を客観的にチェックする役割を担いました！町長の諮問を受け、皆様から集めた意見やアイデアが、実現可能で偏りのない計画として正しくまとめられているかをしっかりと審査し、計画全体の妥当性を確認しました。



職員ワーキング（職員が行政の未来を描く役割）

将来の町政を担う職員も大活躍しました！最新の知見を学び、職員自らが進行役となって本音で熱く議論する「島ぬ3時茶あ会議」を開催。現場のリアルな困りごとや行政DXによる業務改善、そして「どうすれば住民の皆様と一緒に島づくりを進められるか」といった、柔軟で具体的な施策のアイデアを計画に落とし込む役割を果たしました！



1. 基本構想

1. 島づくりの将来像

夢つむぐ島 未来につなぐ久米島らしさ

久米島町はこれまで、「夢つむぐ島 一島人みんなで織り上げる未来」を将来像に掲げ、島人ひとりひとりが強い意志と絆でつながり合い、久米島紬の縦系と横系のように夢と営みを「つむぐ」姿を理想とした島づくりを行ってきました。

第3次久米島町総合計画では、この理念を引き継ぎつつ、「久米島らしい未来」にさらに焦点を当て、島の独自性を活かした持続可能なまちづくりへとステップアップします。

ここでいう「久米島らしさ」とは、豊かな自然の中で生まれ、歴史や暮らしに刻まれてきた独自の文化や価値観のことです。単なる過去の名残ではなく、住民ひとりひとりの誇りとなり、コミュニティの結びつきを支える力でもあります。この独自性は地域ブランドの源でもあり、観光や産業、交流を通して島の魅力を際立たせます。さらに、先人から受け継がれた知恵や文化を次世代へ伝えることで、歴史と未来をつなぎ、島全体の活力を生み出します。

「久米島らしさ」は島の宝であり、守り育てていくべき価値です。それは、島の誇りや住民の結束の源であり、地域の魅力や活力を支え、未来へつなぐ力そのものだからです。その重要性を改めて認識し、島人みんなで共通の理解を持つことが、これからの島づくりの土台となります。だからこそ、この総合計画でその想いを形にし、日々の暮らしやまちづくりに活かしていきます。

きめ細かく織り上げられる久米島紬のように、私たちは島の価値を丁寧に紡ぎ、未来へとつなげていきます。

2. 島づくりの基本目標

将来像を実現するためには、「生活・暮らし」「生業・産業」「自然・環境」の3つの要素を伸ばし、不安なことは解決・改善していく『島づくり』が不可欠です。これらの3要素は、まちづくりの根幹を成す重要な要素です。

「生活・暮らし」は住民の安心や安全を確保し、「生業・産業」は地域経済の持続と資源の循環を支え、「自然・環境」は生活や産業の基盤となる資源や景観を保全する等、いずれもまちの持続的な発展に不可欠な役割を果たしています。

新しい総合計画では、この3要素に加え、それらをつなぎ、組み重ね、お互いを高め合う「統合・調和」の視点を加えた4つの基本目標を軸として、『久米島らしいオンリーワンな島づくり』を進めていきます。

生活・暮らし の基本目標

みんなが幸せに暮らせる島づくり

子育て・教育機能、医療・福祉機能、生活・交通インフラ等、生活基盤・環境のさらなる充実を図るとともに、久米島らしい文化・行事・コミュニティ等を未来に受け継ぎます。これにより、島で暮らすすべての住民が、自然環境や地域社会との調和を大切にしながら、自分らしく充実した暮らしを実現するための、居心地の良い島づくりを目指します。

方針

- 住民サービスの充実や、住民サービス業に従事する人材の確保・育成等
- 病院等医療・福祉施設等の機能維持を図るため、更新や大規模修繕を検討
- 久米島らしい文化・コミュニティ等の保全・継承
- 住宅及び住環境の整備や、生活インフラの充実等による、移住・定住の促進
- 久米島ならではの島しょ型交通体系の整備・運用の検討

生業・産業 の基本目標

力を合わせて活力を生み出す島づくり

産業ごとの発展や生産性向上を目指すとともに、各産業の季節的な繁閑に応じたマルチワークや、各産業の協業による商品開発・島内消費拡大等、産業間の連携をこれまで以上に強化し、業界・分野を横断した産業全体の振興を図ります。これにより、地域ブランディングの効率化、地域資源の高付加価値化等、町内産業全体での相乗効果の創出を目指します。

方針

- 各産業が連携する横断的な産業振興・雇用拡大・担い手確保
- 産物の価値向上や地産地消の促進等、一次産業の活性化
- 商店街の活性化等による、人が集まる仕組みやエリアの構築検討
- 地域資源を最大限活用した観光振興による、各産業の島内消費量増加
- 生産環境の改善に向けた産業基盤の更新・リニューアル、スマート化検討

自然・環境 の基本目標

美しい景観・自然と共生する島づくり

島で暮らす多くの住民に愛されている、久米島らしい自然・景観や文化財等を保全し、未来に残していくとともに、観光資源や地域ブランディング、地域教育等の魅力的な資源として、積極的な活用を図ります。また、再生可能エネルギーの利用等、環境負荷の少ない持続可能な島づくりを目指します。

方針

- 久米島らしい自然・景観・文化財等を保全・継承するとともに、地域資源として活用
- 循環型社会の構築により、環境負荷の低減を図る
- カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー自給率の向上

統合・調和 の基本目標

時代の変化を捉え、個性が輝く島づくり

官民学連携や役場内の連携など、3つの要素が連動するための体制を強化するとともに、島内の適切な土地利用誘導や、久米島の地域特性に合ったデジタルインフラ整備・デジタル技術導入等を図ります。

方針

- 「産業の活性化」及び「雇用機会創出」を考慮した人口フレームの検討
- デジタル田園都市国家構想総合戦略に基づき、デジタル技術の導入・活用の推進
- 土地利用・インフラ・交通・施設管理等の方向性を示す空間構想づくり
- 「生活（社会）」、「生業・産業（経済）」、「自然（環境）」が連動し、課題解決に向かうための体制（庁内連携、官民学連携）強化

3. 将来フレーム

■稼ぐ力のある島へー産業フレームー

離島においては、雇用が人口に直結することから、産業振興を重要施策と位置づけ、生産額や一人当たりの所得の増加を目指し、産業構造を軸とした将来フレーム（就業者数・総生産額）を設定します。久米島で豊かに暮らしていくために、人口減少に伴う就業者数の減少を受け入れつつも、島の産業の活性化、一人当たりの総生産額の増加を狙い、適切な産業振興策を講じます。



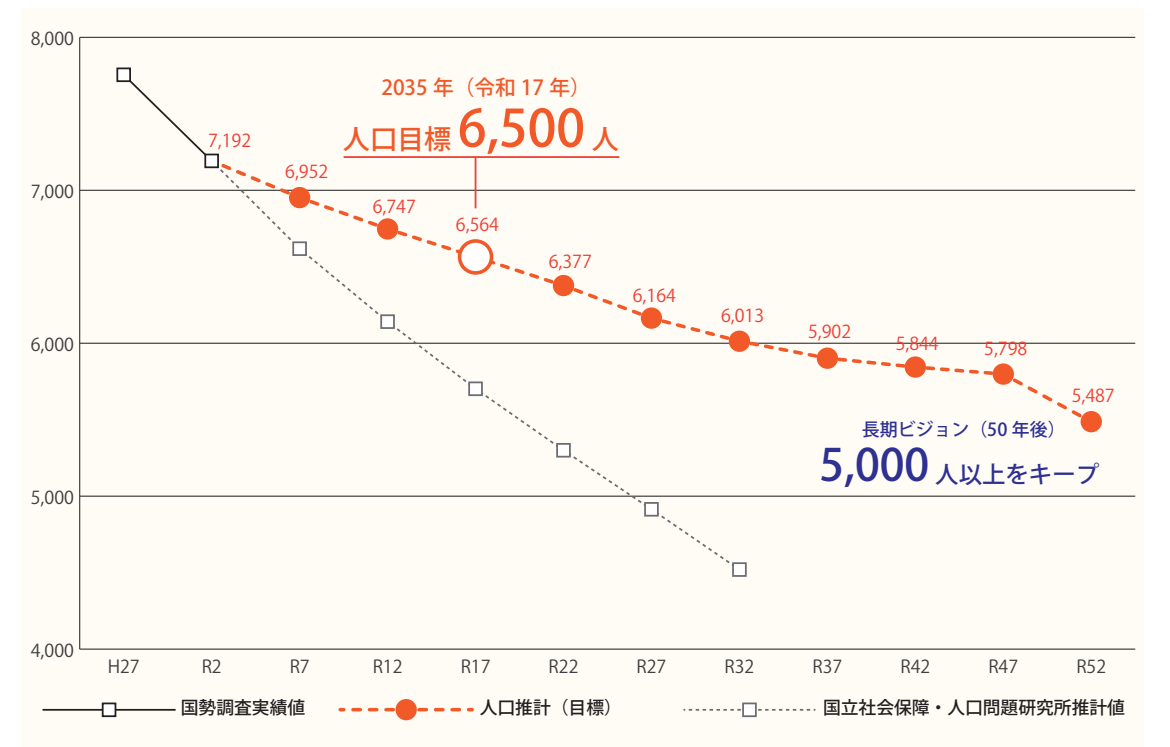
※コロナ禍前（令和1年）
総生産額：11億円

久米島町全体



■久米島らしく暮らせる社会へー人口ビジョンー

久米島町は、将来にわたり少子高齢化・人口減少が進んでいくことが予想されます。久米島で暮らし続けるためには、人口減少を受け入れつつも各産業を活性化また、維持しながら人口減少を可能な限り抑制する必要があります。子ども達は、進学や就職で久米島を離れますが、島外で力を蓄え、また島に戻ってきたいと思ってもらえる島づくりや雇用の提供が重要です。若い世代が島に戻りまたは、移住し活躍、島の産業を盛り上げ活性化・発展していく。こうした好循環を生み出せる久米島らしく暮らせる社会を目指します。

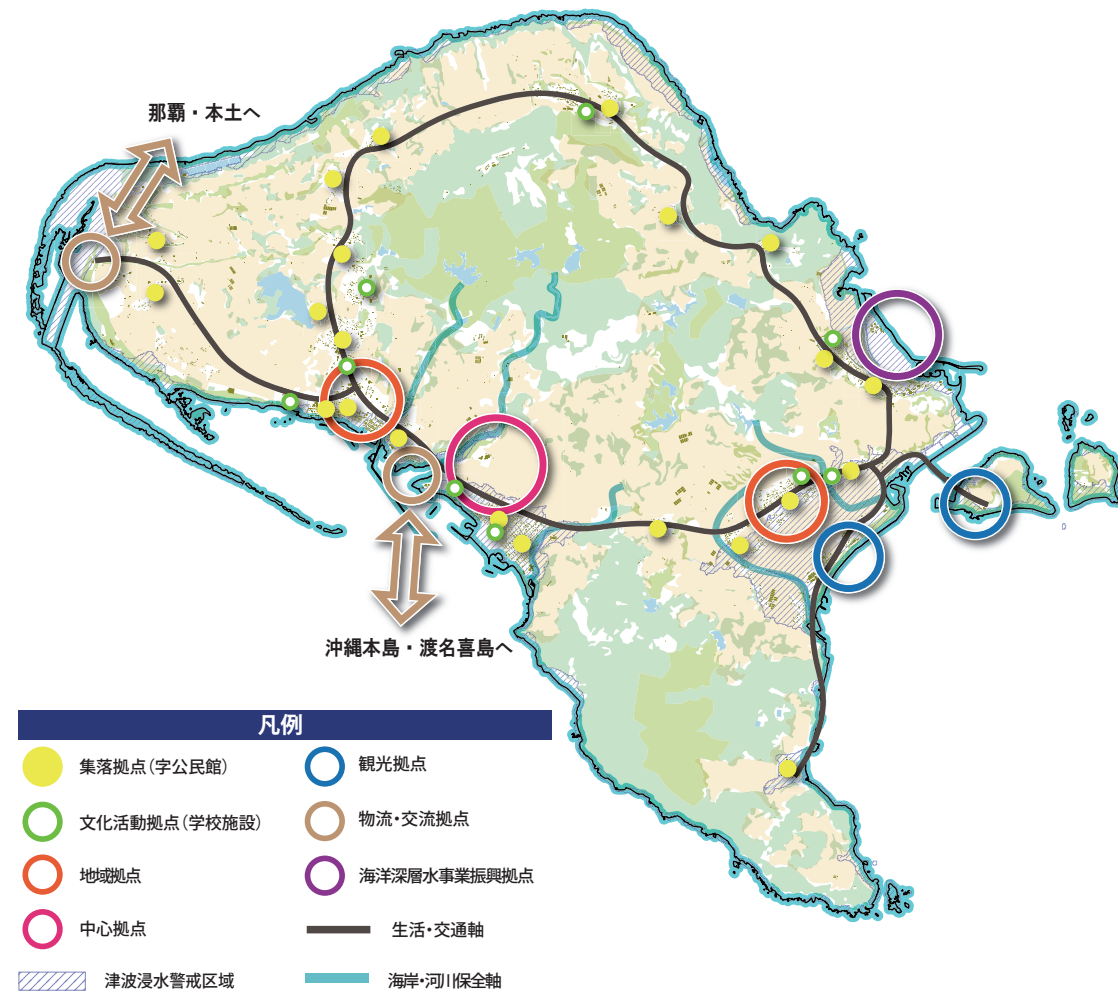


産業フレームから導いた就業者数を踏まえ、
2035年（令和17年）の将来人口を6,500人に設定します。
長期人口ビジョンについては、総合計画の見直し時に適宜検証し、
当面は5,000人を下回らないことを長期的な展望とします。

推計条件（仮定の人口動態モデル）
条件①高校進学世代の社会減の緩和（久米島高校の入学定員割れの改善）
設定__久米島高等学校の魅力化を推進し、久米島高等学校を希望する子どもたちの増加
条件②新卒世代の社会増（島内事業所への就職・島内での起業）
設定__大学卒業後、就労環境が充実した久米島に20～30代でUターンし、島内で就職
条件③中堅世代の社会増（島内事業所への就職）
設定__県外企業にいったん就職し、専門技術や知識を身につけUターンし、島内で就職

4. 島づくり構想図

将来の島の姿を描いた「島づくり構想図」です。
久米島の土地利用や道路・交通、地域拠点や公共施設の在り方等、優先的なまちづくりの方向性を示した方針図です。



- 住宅地**
- 字公民館を地域コミュニティの中心機能として強化させ、共助・協働、つながりのある地域づくりを支援
 - 集落（住宅）が無秩序に広がらないこと、適切なインフラ整備・集落排水、伝統的集落形態の保全、景観形成、空き家対策、集落の防災機能強化、津波等の災害対策等の計画的な土地利用を推進
- 森林等自然環境**
- 山や河川、海浜、豊かな水、多様な動植物、特徴ある地形や地質等、久米島らしさを表す自然環境を保全・活用し、将来へ継承
- 農地**
- 島の基幹産業（農業）を支える生産環境の維持・管理の徹底、生産基盤整備を推進

- 集落拠点**
- 集落のコミュニティの中心となる字公民館を「集落拠点」とし、周辺地域住民のコミュニティや活動拠点として施設更新支援・機能強化・充実
 - 高齢者の見守り、子ども達の居場所として、関係機関や団体と連携し、よりよい施設運営をサポート
- 文化活動拠点**
- 学校施設は、教育施設として維持管理を進めるとともに、地域住民の「文化活動拠点」とし、体育館や運動場は、地域行事やレクリエーション、防災訓練等に活用
 - 適正規模・配置を検討する小学校・中学校は、久米島らしい教育が実現できる機能配置と環境整備を検討
- 地域拠点**
- 飲食店やスーパー、銀行等が並ぶ道沿いや商店街を「地域拠点」とし、買い物、飲食、診療所、金融等、地域サービスに必要な施設や機能の立地や誘導を推進
 - 近隣集落と公共交通等でネットワークさせ、生活の利便性の向上を図る
- 中心拠点**
- ほんのもり、博物館、久米島病院が集積するエリアを「中心拠点」とし、公共機能を始め、教育、医療・福祉、防災等、公益機能を検討
 - 各地域・拠点と公共交通等でネットワークさせ、利便性の高いコンパクトなまちづくりを推進
- 観光拠点**
- イービーチ通りは、飲食店や宿泊施設等の立地や誘導を図るとともに、島民や観光客で賑わい、楽しめる環境整備やリゾート空間演出を推進
 - 奥武島は、環境保全と観光振興の両立を図り、レクリエーション空間として環境整備を推進
- 物流・交流拠点**
- 港湾、空港が立地するエリアを「物流、交流拠点」として、美化及び景観形成、賑わい空間の演出を推進
 - 港湾は島民の生活及び産業の振興に不可欠な物流の拠点であること、空港は町民や多くの観光客の玄関口となっていることに留意し、適切な維持・管理等を促進
- 深層水拠点**
- 海洋深層水関連産業が集積するエリアを「海洋深層水事業振興拠点」とし、海洋深層水事業の振興や他分野への展開、海洋深層水の一層の利活用を図る
- 海岸・河川保全軸**
- 海岸や河川、これら周辺の自然環境を「海岸・河川保全軸」とし、地形や動植物の保全、清掃活動を推進
 - 久米島の自然環境の維持に努めつつ、環境学習や体験、レクリエーション等への活用を図る
- 生活・交通軸**
- 島内の一周線を基本に、空港や奥武島、島内の地域や拠点をネットワークする道路を「生活・交通軸」とし、地域住民の生活及び移動交通を支える
 - 交通安全・防災の他、新たなインフラ機能の基盤として、維持管理、機能強化を図る

5. デジタル構想

デジタル技術が急速に発展する昨今、デジタルは地方の社会課題を解決するツールであり、新たな価値を生み出す源泉となっています。

特に、離島地域におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）は、単なる技術的な変革にとどまらず、地域全体の生活水準や競争力の向上に直結する重要な要素としてますます重要になり、「便利で賢い暮らし」にとっても大事な要素の一つです。

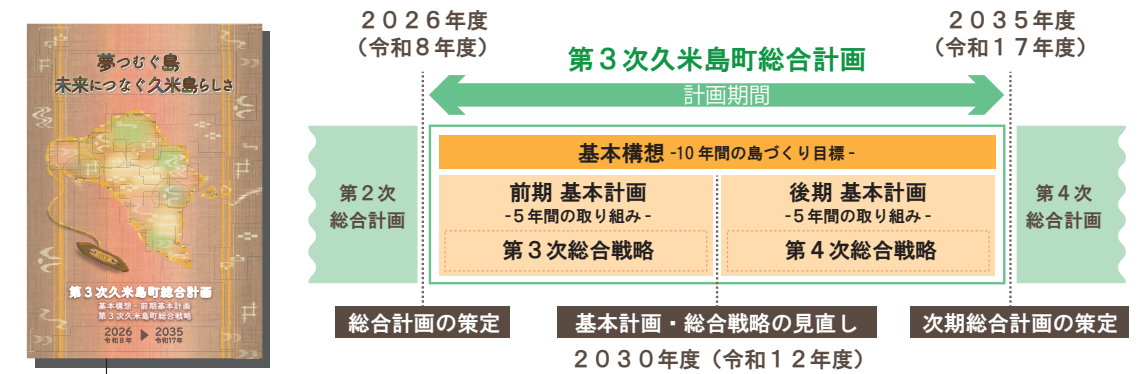
しかし、最新で高性能なデジタル技術の導入だけでは、地域の持続的な発展にはつながりません。デジタル技術はあくまでも人の暮らし・生活をサポートする手段（道具）であり、それを活用する「人」の存在が、地域の発展には欠かせないからです。

久米島の『生活・暮らし』『生業・産業』『自然・環境』の特性に合わせたデジタル技術を選択し導入することで、地域コミュニティが結束し、島民・団体・行政・関係人口等、久米島にかかわるみんなが力を合わせて久米島らしさを強くし、一人ひとりの暮らしの充実、地域の活性化や産業発展、好循環な環境づくりを促進します。



6. 総合計画のしくみ

第3次久米島町総合計画は、2026年（令和8年）から2035年（令和17年）を計画期間とします。総合計画の推進にあたっては、総合戦略を含んだ基本計画を着実に実行します。2030年（令和12年）は、前期の5年間と取組を評価・検証し、後期の基本計画及び総合戦略の見直しを行います。



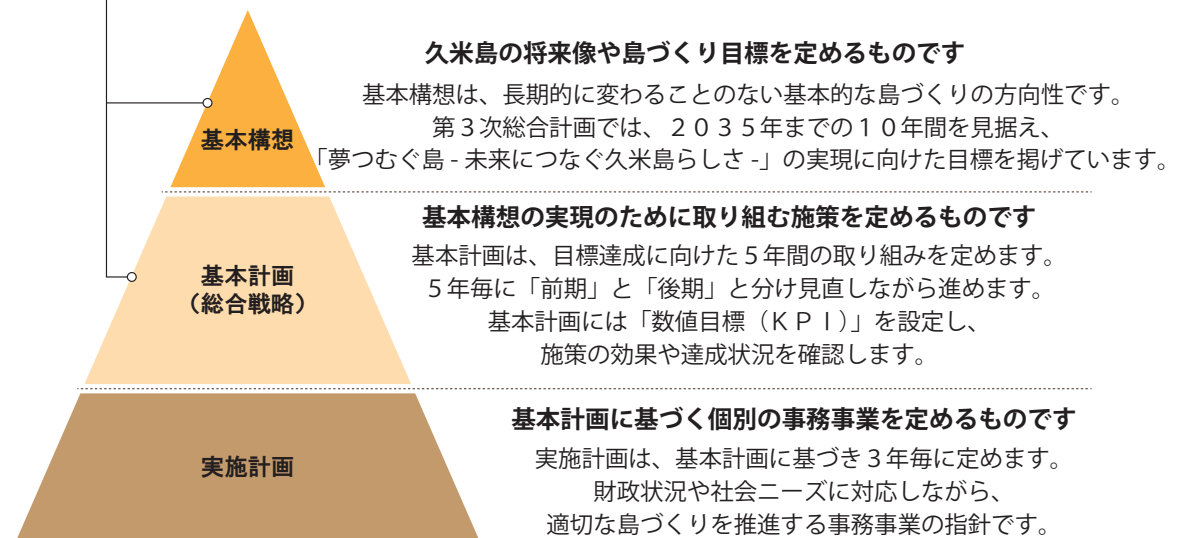
計画書に載っている内容

・・・総合計画とは・・・

「この計画がなくては、今後の島づくりが進められない！」
というくらいに重要なものです。

久米島町で暮らし・はたらく、多くの住民や組織・団体一丸となって、より良い未来に進むには、『何のために、どう進むのか』を共有しなければいけません。

この総合計画は、町民の想いや声を反映させる
10年間の「島づくりの指針」であり、行政運営の道しるべとなる重要な計画です。



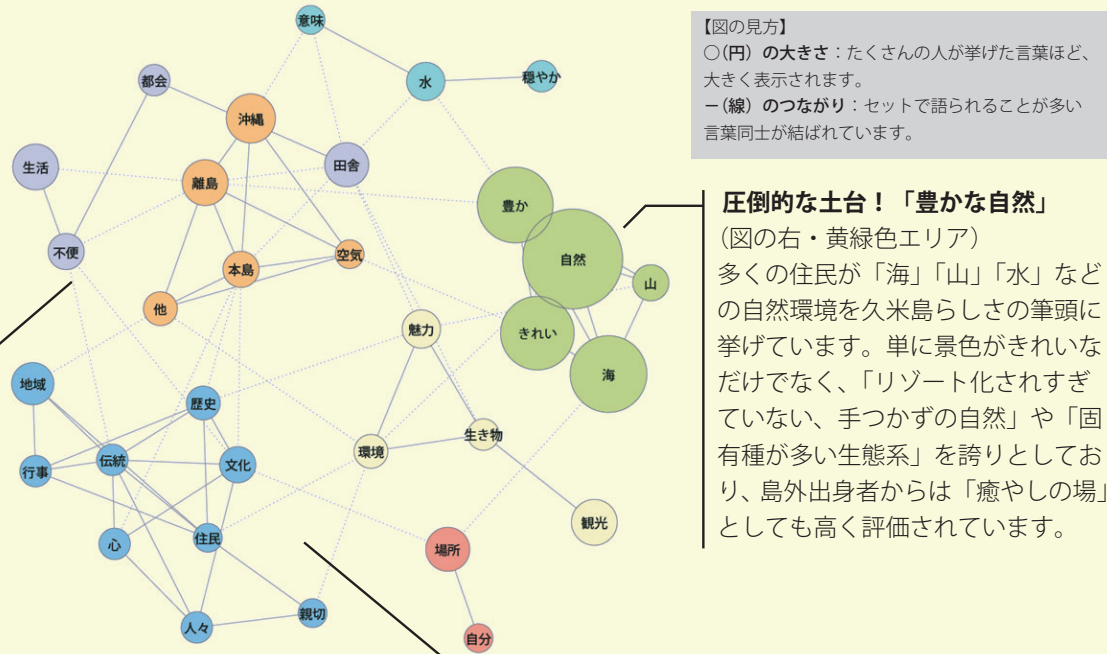
もっと詳しく解説！ 総合計画と総合戦略（デジタル田園都市国家構想）

総合戦略は、少子高齢化や人口減少に重点的に対応する地域づくりの指針です。
新たな総合戦略では、デジタルの力を活用して地方創生を図ることが求められています。
「島づくりの指針となる総合計画」と「人口減少対策に取り組む総合戦略」は類似しています。
本町では、基本計画に総合戦略の考えを含ませ、「総合戦略を兼ねた総合計画」として作成します。

「久米島らしさ」って、なんだろう？

アンケートで投げかけた、「あなたが思う『久米島らしさ』とは？」という質問。寄せられたたくさんの言葉（自由意見）を分析しました。言葉と言葉のつながりを線で結んだ「キーワード関係図（共起ネットワーク図）」を見てみると、私たちが大切にしている「3つの宝物」が浮かび上がってきました。

「久米島らしさ」キーワード関係図（共起ネットワーク図）



【図の見方】
○(円)の大きさ：たくさんの人が挙げた言葉ほど、大きく表示されます。
—(線)のつながり：セットで語られることが多い言葉同士が結ばれています。

圧倒的な土台！「豊かな自然」
(図の右・黄緑色エリア)
多くの住民が「海」「山」「水」などの自然環境を久米島らしさの筆頭に挙げています。単に景色がきれいなだけでなく、「リゾート化されすぎでない、手つかずの自然」や「固有種が多い生態系」を誇りとしており、島外出身者からは「癒やしの場」としても高く評価されています。

少しの不便と「素朴な暮らし」
(図の左上・紫エリア)
都会的な便利さはないものの、「のんびりした時間」や「ちょうどよいコンパクトさ」といった、素朴で地に足のついた暮らし自体を「らしさ」と捉える声も多く見られました。

温かい「人」と「ゆいまーる」の精神
(図の中央～左・青エリア)
自然と同じくらい多く挙げられたのが、人の魅力です。「親切」「温かい」「おおらか」といった気質や、困った時に助け合う「ゆいまーる」の精神が根付いていることが特徴です。特に島外出身者からは「誰でも受け入れてくれる寛容さ」が、久米島出身者からは「人との強いつながり」が強調されています。

出身で見ている景色が違う？

久米島出身の方の視点
歴史とつながりが誇り！
「球美の島」という歴史的背景や、「久米島紬」「角力（すもう）」などの伝統文化をアイデンティティとして挙げる傾向があります。また、「人と人とのつながりが強い」「助け合い（ゆいまーる）」など、地域社会の内側の絆を重視しています。

島外出身の方の視点
「ありのまま」と「温かさ」に感動！
リゾート化されすぎでない「手つかずの自然」や、「固有種」の多さに価値を感じています。人間関係では、「誰でも受け入れてくれる」「よそ者扱いしない」といった、島の人々の寛容さ・優しさに魅力を感じているのが特徴です。

子ども町長の島づくり

「あなたが久米島町長になったら、どのような町にしたいですか？」島の中学生・高校生 319 人に、理想の島のキャッチコピーと、そのための公約（取り組み）を考えてもらいました。そこには、大人がハッとするような「夢」と「リアル」が詰まっていました！子どもたちが考えた島づくりアイデアの一部を紹介します。

「仕事」と「お金」の問題に切り込む！

将来 U ターンしたいからこそ、大人が驚くほどシビアに「働く環境」を見ています。

U ターンして働きたいと思える島づくり

最低賃金を上げる、給料を増やす。
旧呉志川村側にも店舗や職場を増やす。

戻ってきたいと思えるよう魅力いっぱい島づくり

隠れている魅力を引き出す。
今、久米島に足りていない制度を増やす。

住み続けられる島づくり

久米島で作ったものを久米島で売る（地産地消）。
ショッピングモールを作る。

揺るがない安心と笑顔をつくる！

自分たちの遊び場だけでなく、高齢者や弱者への視点をしっかり持っています。

笑顔あふれる自由な島

介護や保育、医療の公共的なサポートを充実させる。
子どもや学生が活躍できる場を増やす。

みんなが過ごしやすい島

たくさんの町民の意見を積極的に取り入れる。
医療関係のことをもっと充実させる。

安心・安全 暮らしやすい島

みんなで助け合う。
自然災害に備えた施設を増やす。



「自然」を守り、「外」とつながる！

島の宝である自然を守りつつ、グローバルな視点で島の価値を高めようとしています。

グローバル (Global×Local) な島づくり

島のそのままを大切に、もっといろんな所から人を呼ぶ。
一部リゾート化する。

自然豊かな島づくり

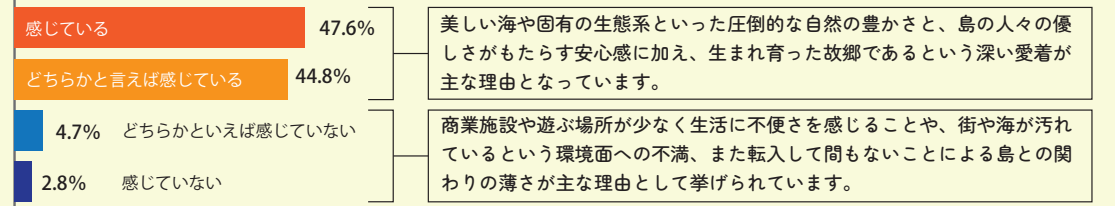
SDGs にもっと取り組み、小中高にも声をかける。
松が枯れるのを止める。

県内外との交流が盛んな島づくり

お土産フェアや、リモートで県外の高校生と話すきっかけを作る。

子ども町長たちの提案は、決して「夢物語」ではありません。「賃金を上げてほしい」「医療を充実させてほしい」「自然を守ってほしい」。これらは、今の久米島が直面している課題そのものです。第3次総合計画では、この「未来の町長たちからの提案」に、私たち大人が本気で向き合っていきます！

中学生・高校生に聞きました！島への愛着・誇りを感じていますか？



久米島の光と影

【図の見方】
 ○(円) の大きさ：たくさんの人が挙げた言葉ほど、大きく表示されます。
 - (線) のつながり：セットで語られることが多い言葉同士が結ばれています。

「久米島の好きなところは？」「直してほしいところは？」アンケートに寄せられた言葉（自由意見）を年代別で分析しました。言葉と言葉のつながりを線で結んだ「キーワード関係図（共起ネットワーク図）」からは、私たちが誇りに思う「光（魅力）」の部分と、暮らしの中で抱える切実な「影（課題）」の部分、くっきりと浮かび上がりました。

「久米島の光（魅力）」キーワード関係図（共起ネットワーク図）

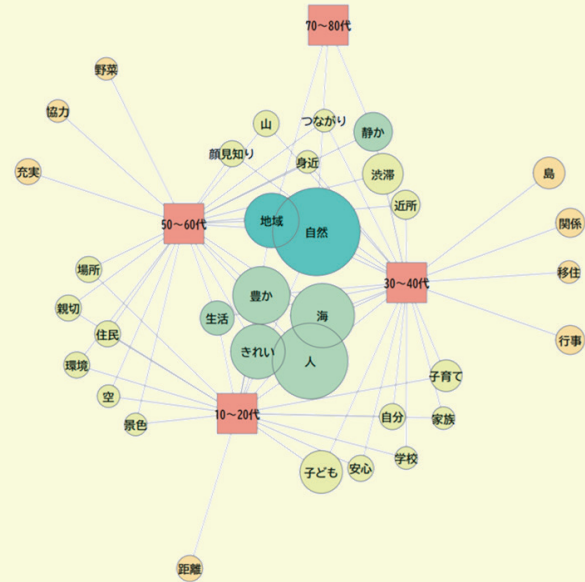
全世代の共通点
 (中心に集まるほど共通するキーワード)
 自然と人の温かさは世代を問わず、圧倒的に多くの人が「美しい海や自然」と「人の温かさ（親切・助け合い）」を久米島の宝として挙げています。

10～20代（学生・若者）
 「学校」や「友達」との距離の近さなど、日々の生活圏における身近なつながりに魅力を感じています。

30～40代（子育て・移住世代）
 「静かな環境」や「子育て」のしやすさを評価しており、落ち着いた暮らしができる点を重視しています。

50～60代（ベテラン世代）
 地域での「協力」や「親切」など、社会的なつながりや相互扶助の精神を高く評価しています。

70代以上（シニア）
 「顔なじみ」との関係性や、「静か」で穏やかな暮らしそのものに安心感と愛着を感じています。



「久米島の影（課題）」キーワード関係図（共起ネットワーク図）

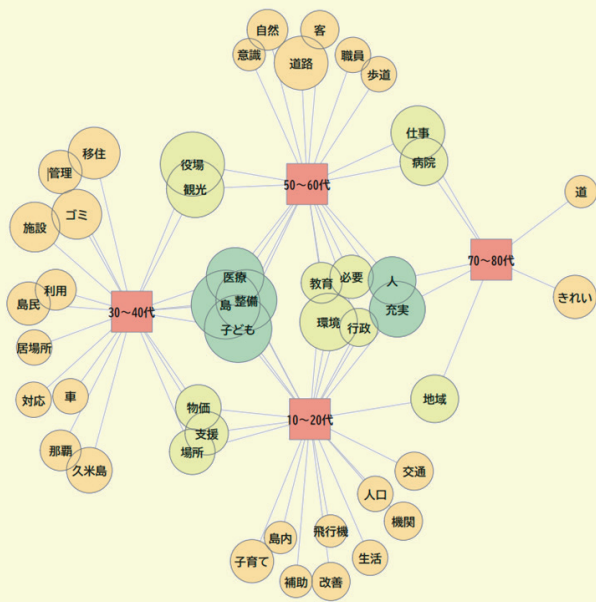
全世代の共通点
 (中心に集まるほど共通するキーワード)
 「医療」「交通（移動手段）」「買い物などの生活利便性」の不足は、全年代にとっても共通の悩みであり、最優先で解決すべき課題として認識されています。

10～20代（学生・若者）
 進路に関わる「教育」環境の充実や、島外への移動費・バスなどの「交通」インフラに対する不満が切実です。

30～40代（子育て・移住世代）
 移住者や若者が住むための「住宅（居場所）」不足や、「ゴミ」処理などの生活環境の管理・整備を求めています。

50～60代（ベテラン世代）
 「役場（職員）」の対応やサービス向上、そして生活道路などの「インフラ整備」に対して厳しい視点を持っています。

70代以上（シニア）
 「道路（歩きやすさ）」や、雑草などの「景観（きれいさ）」の維持管理といった、身近な生活環境の課題を気にしています。



II. 前期基本計画

【第3次総合戦略】